

2023.9.24 佐那河内村学術講演会

中世の佐那河内村  
勸善寺大般若経が語る地域史

徳島県立博物館・鳥居龍蔵記念博物館 長谷川賢二

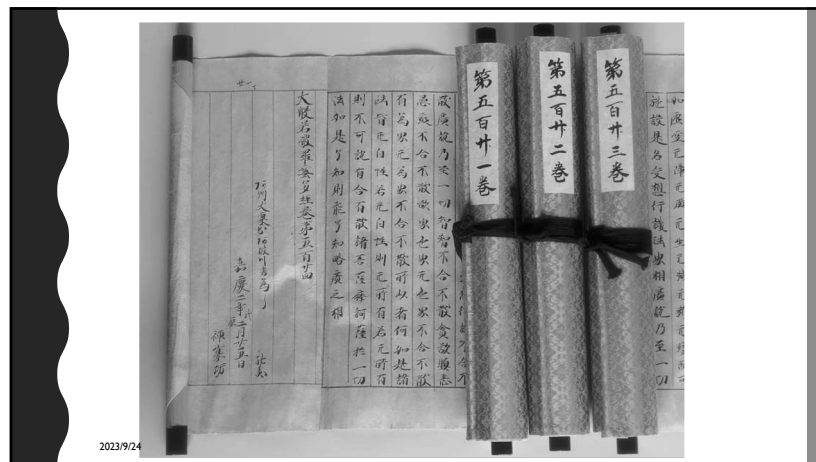
2023/9/24

1

はじめに

2023/9/24

2



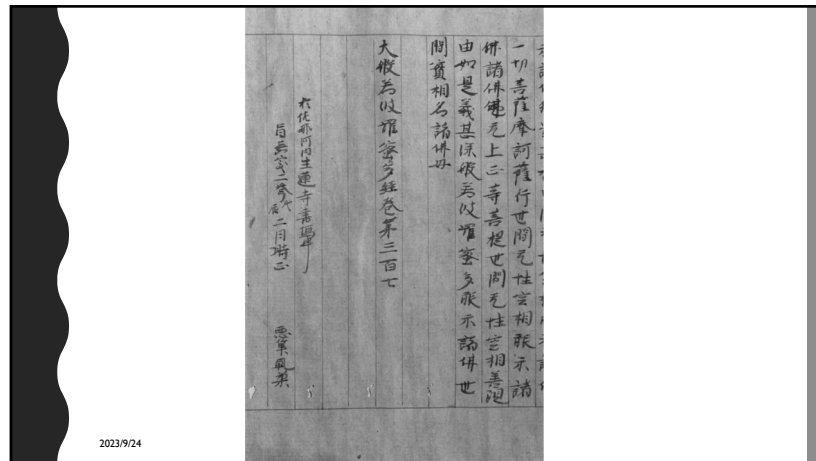
3

なぜ勸善寺大般若経なのか

- 中世における佐那河内村に関する希少な文字資料...巻307~310

2023/9/24

4



5

## 地域史料としての写経

- 浅香年木「中世北陸の在地寺院と村堂」（『中世北陸の社会と信仰』法政大学出版局、1988）  
...「写経における広域的な合力」の指摘（能登の事例）
- 特殊←→普遍？...山伏の地域結合との関連から

2023/9/24

6

## 思い出深き勸善寺大般若経

- 1999 阿波学会調査（神山町）...一つの発見と衝撃
- 2000 神山町史編纂に伴う全巻調査...町史編集委員会、神山町古文書を読む会、鳴門教育大学歴史学教室、徳島中世史研究会の協働

2023/9/24

7

## 大般若経巻208

- 中世修験道史、四国遍路史に新視点
- 人名に注目すると、京都や岡山とのつながり、この大般若経の写経過程も浮上

2023/9/24

8

## きょうのお話

- 史料としての大般若経
- 勧善寺大般若経の意義
- 「地域」の相貌の読み解き      を中心に

2023/9/24

9

## 史料としての大般若経

2023/9/24

10

## 大般若経とは何か

- 大般若波羅蜜多経の略
- 般若経典群の集大成
- 唐の玄奘訳
- 全600巻

2023/9/24

11

## 大般若経とは何か

- 般若経の読誦、書写、思索などによる功德が説かれる→招福除災、鎮護国家
- 真読、転読
- 写経…各地の寺社で書写、奉納→広く浸透

2023/9/24

12

## 大般若経の史的意義

- 地方の宗教・信仰、社会...聖俗両界  
→地域社会の相貌が知られる豊かな情報源
- 書誌情報...法脈など
- 奥書...時期、地名、寺社名、地名など

2023/9/24

13



2023/9/24

14



2023/9/24

15

## 徳島県における大般若経とその研究史

- 県指定文化財となっているもの（勸善寺経を除く）
- 那賀町大宮八幡神社 大般若経600帖（1378～1399）
- 勝浦町妙音寺 版本大般若経600帖（1379開板、1431当寺へ）
- 海陽町大日寺 大般若経569帖（原本522）（1206～1213ごろ）
- 三好市地福寺 大般若経590帖（貞治年間1362～1368）
- 阿波市個人旧蔵（県立博物館蔵） 大般若経残巻（中国唐代か）
- 小松島市個人蔵 大般若経（8世紀か）

2023/9/24

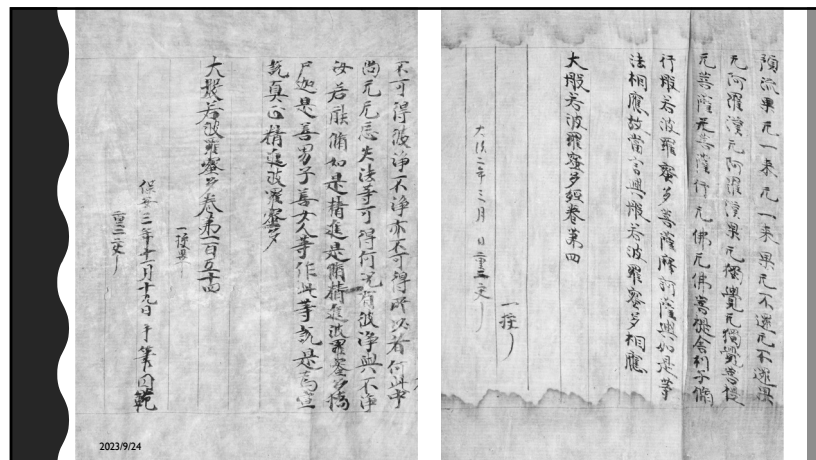
16



17



18



19

## 徳島県における大般若経とその研究史

- 県指定文化財... 勸善寺経のみ卷子  
これ以外は折本
- 全体を俯瞰しようとしたもの... 田中善隆「阿波の大般若経」  
(徳島県博物館紀要12、1982)、同「阿波の大般若経(続)」  
(徳島県博物館紀要14、1984)のみ
- 大日寺、地福寺、勸善寺、妙音寺、吉野川市高越寺、三好市三  
所神社の各経... 奥書集成、考察→基礎調査として貴重
- 市町村史や個別の報告書等

2023/9/24

20

## 徳島県における大般若経とその研究史

- 県外にも阿波関係の情報を含む大般若経あり
- 香川県東かがわ市若王寺大般若経、同市水主神社内陣・外陣の各大般若経は貴重...阿波・讃岐の交流

2023/9/24

21



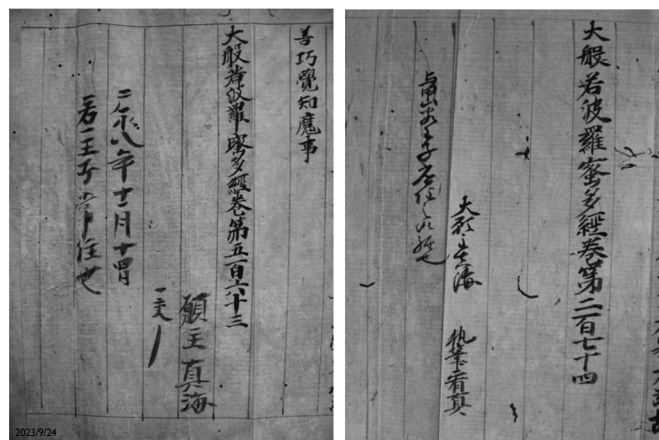
2023/9/24 若王寺

22



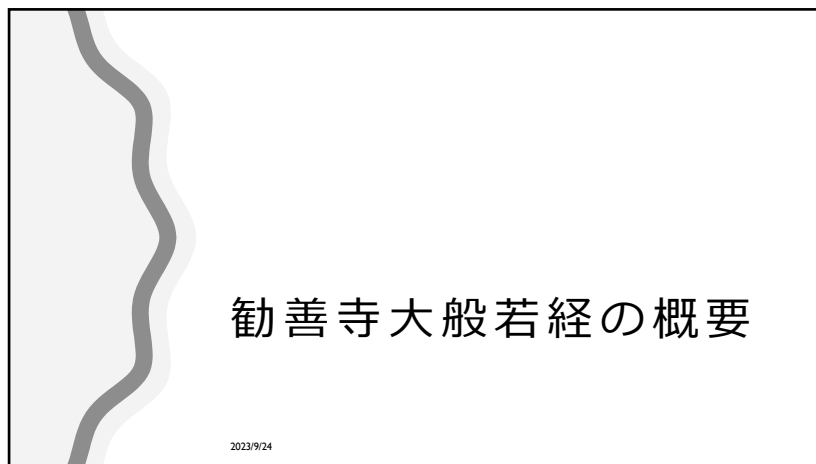
2023/9/24

23



2023/9/24

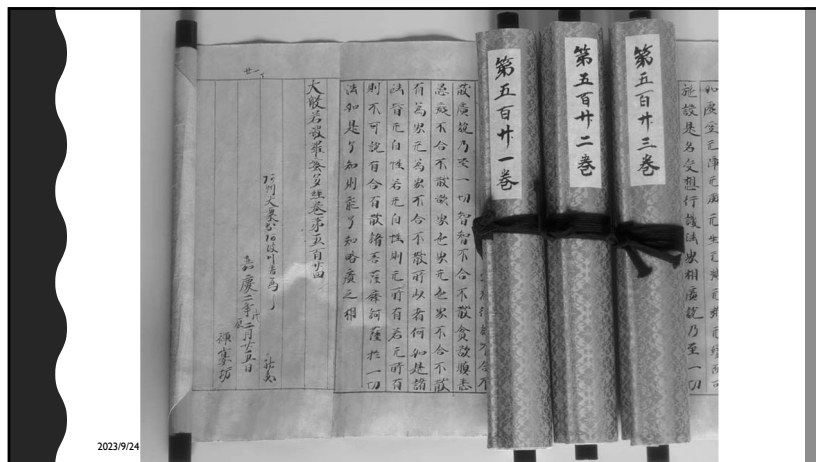
24



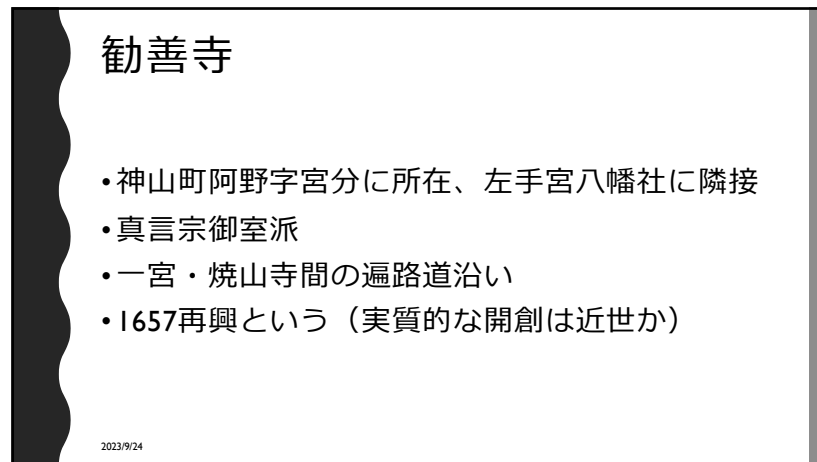
25



26



27



28

## 勸善寺

- 神山町阿野字宮分に所在、左手宮八幡社に隣接
- 真言宗御室派
- 一宮・焼山寺間の遍路道沿い
- 1657再興という（実質的な開創は近世か）

## 大般若経の成立と現状

- 南北朝時代末期 1387～1389（1388に本格展開）に書写された大般若経（黄楮紙、墨書、卷子）
- 長い歴史の中で破損、流出
- 明治時代、昭和40年代、50年代に修理、欠巻補充→全600巻がそろそろ（8巻のみ白紙）

2023/9/24

29

## 大般若経の所管をめぐる謎

- 現存経巻には「勧善寺」の名称はない
- 写経と勧善寺は無関係→書写後のある時期に移動
- 勧善寺に入るまでにどのような経緯があったのか

2023/9/24

30

## 奥書の記載

- 「於阿波国名西郡大栗下山柚宮八幡宮常住也」（474）
- 「柚宮八幡宮常住也」（578・597）
- もとは柚宮八幡宮に奉納するために書写されたと想定...造営に係る勧進か

2023/9/24

31

## 19世紀の記録

- 大栗雑誌稿（1831）「同社大般若経写本巻物之跋」  
※同社＝柚宮八幡宮
- 野口年長 粟の落穂（1846序）「名西郡阿川村二ノ宮（柚ノ宮ともいへり）八幡宮に古き大般若経あり」
- 幕末期には現在の二之宮八幡神社にあった

2023/9/24

32

## 勸善寺への移管

- 史料なし
- 明治初期 神仏分離が契機か
- 中世において柚宮八幡宮に最も近かったのは地福寺...天正年間に焼失し、麻植郡にて再興といわれる→19世紀に最も近かったのは勸善寺

2023/9/24

33

## 生きている文化財

- 阿野のうち阿川地区における転読儀礼に使用
- 旧暦6月7日

2023/9/24

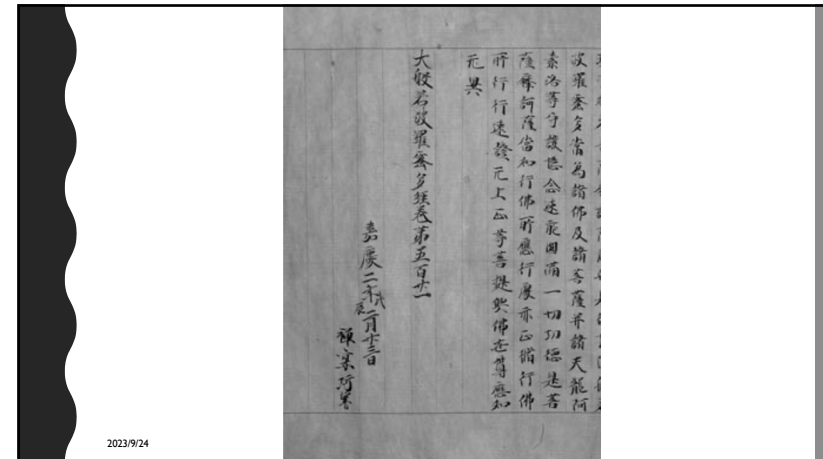
34

## 流出巻との遭遇事例

- 2003年 徳島市内の個人宅での調査において大般若経巻521を発見
- 時期、写経者、紙質など勸善寺経に共通
- 1971年までに勸善寺から流出したもの

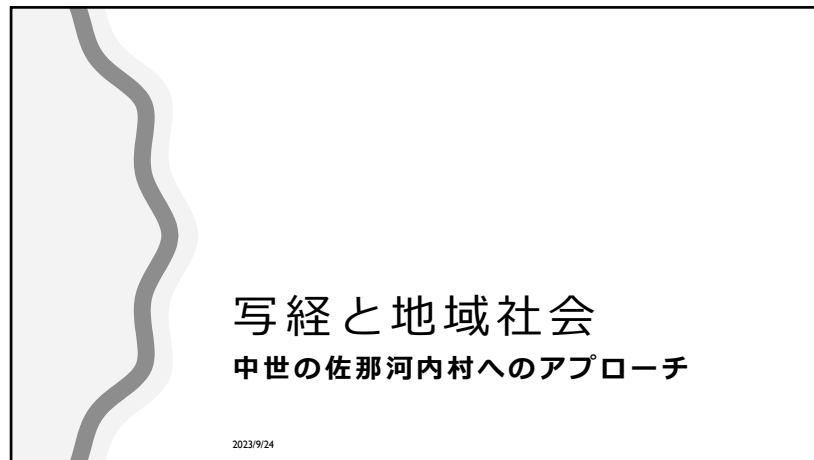
2023/9/24

35

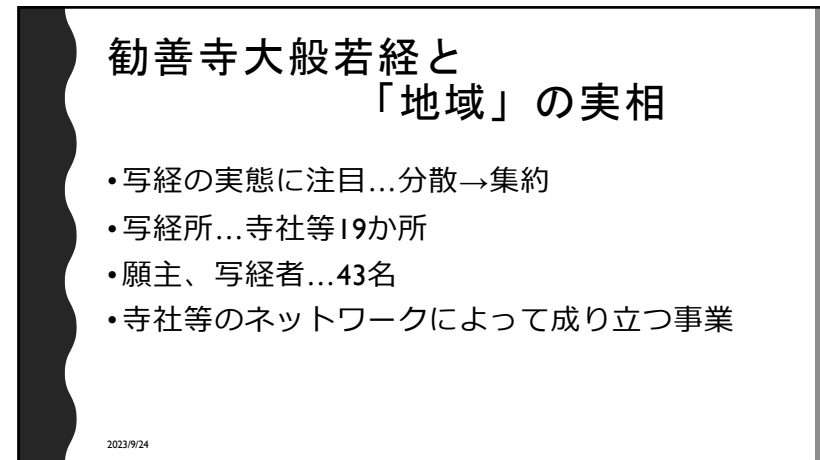


2023/9/24

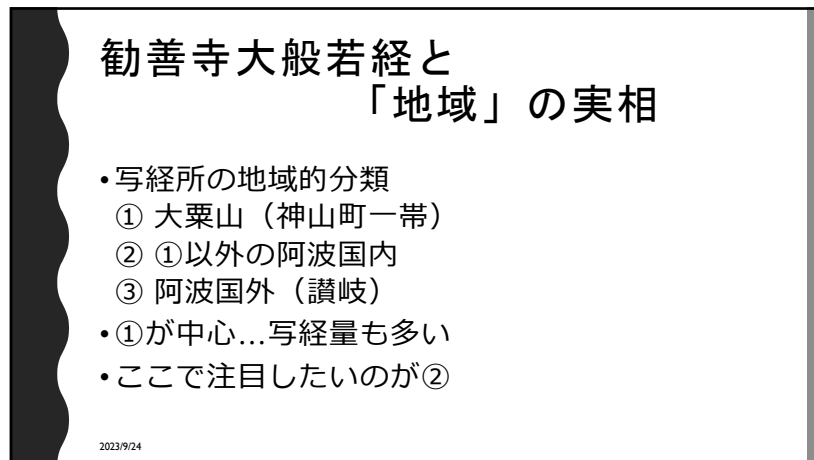
36



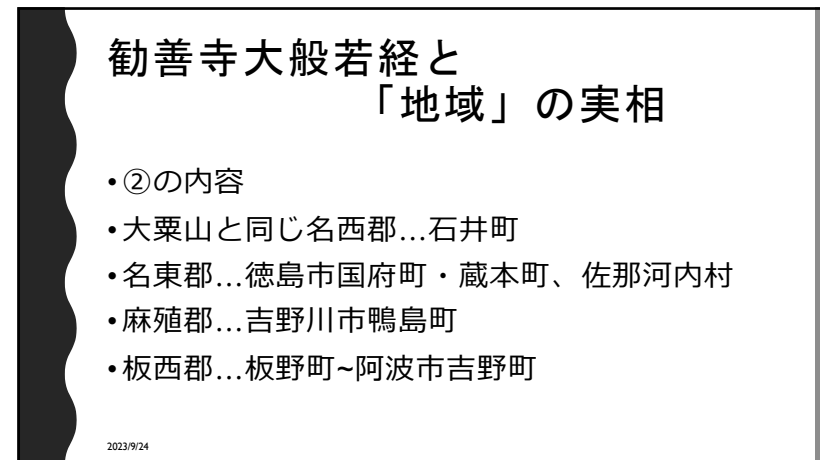
37



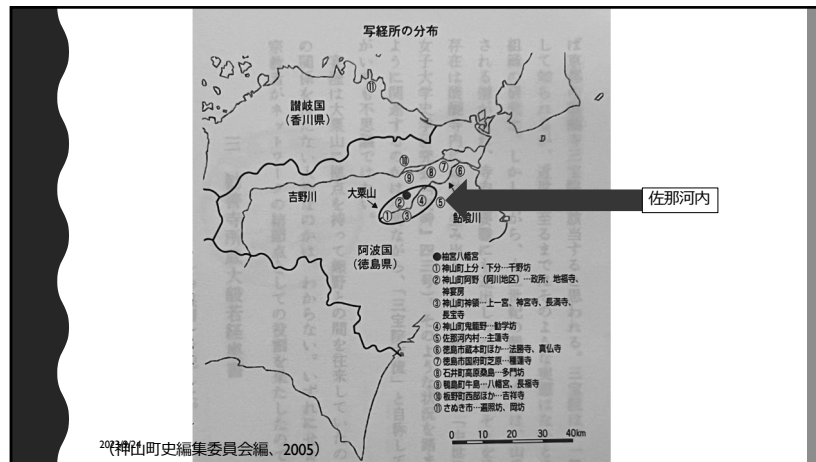
38



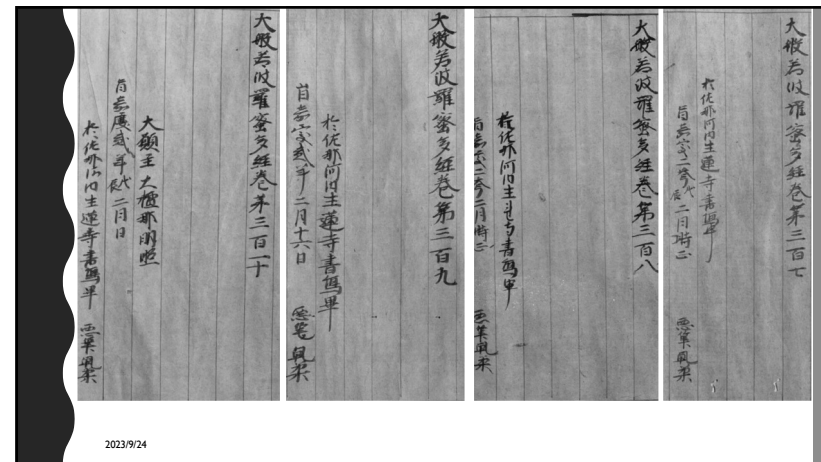
39



40



41



42

## 勸善寺大般若經と 「地域」の実相

- 佐那河内の情報
- 主蓮寺 乾柔...どこ？ 誰？
- 「14世紀に存在した寺院と僧」という以上のことは不明
- しかし・・・

2023/9/24

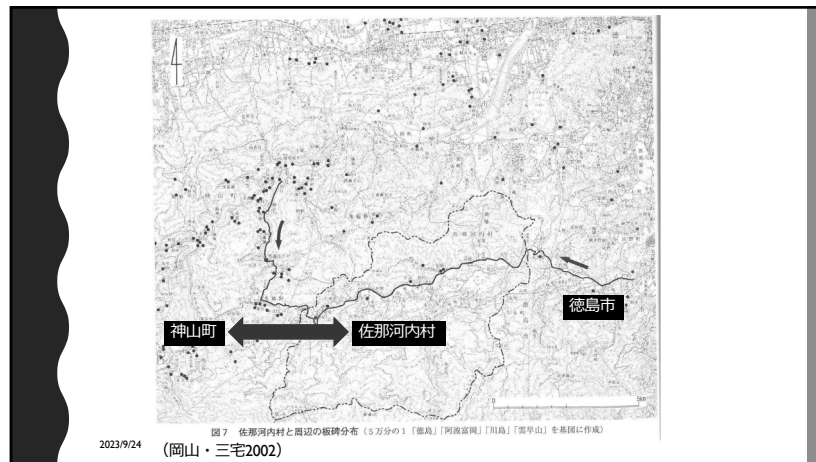
43

## ネットワークを現出する力

- 大栗山（柚宮八幡宮）と佐那河内の位置関係
- 隣接地...徳島市旧勝浦郡地区（片上、渋野）  
神山町鬼籠野
- 日常的通交圏

2023/9/24

44



45

## ネットワークを現出する力

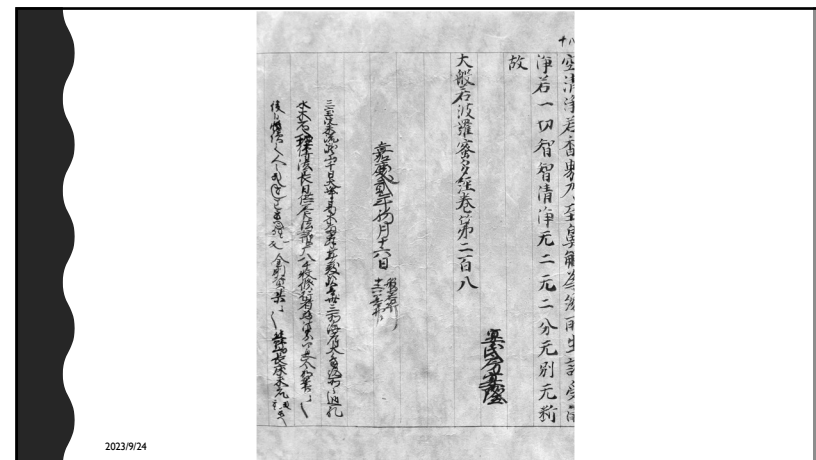
- 鮎喰川下流（吉野川合流点近く）に「倉本下市」（巻321）
- 徳島市中島田遺跡...列島内、東アジアに広がる交易 = 陸運・水運の発達
- 遠隔地交通、流通の発達

46

## ネットワークを現出する力

- 巻208に見える熊野山長床末衆宴氏房宴隆

47



48

## ネットワークを現出する力

- 熊野を含む大峰・葛城山系、西国巡礼、海岸大辺路（四国辺路）の修行
- 備前児島、熊野本宮が拠点→四国各地も活動舞台か
- 阿波国板西郡での勧進（巻210）

2023/9/24

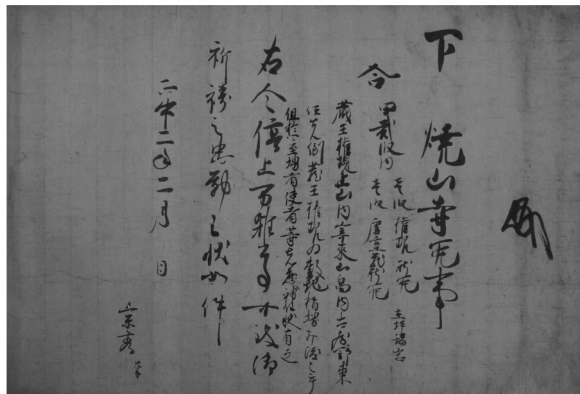
49

## ネットワークを現出する力

- 焼山寺の存在...誘引力
- 弘法大師信仰（太龍寺縁起）、蔵王権現、熊野権現

2023/9/24

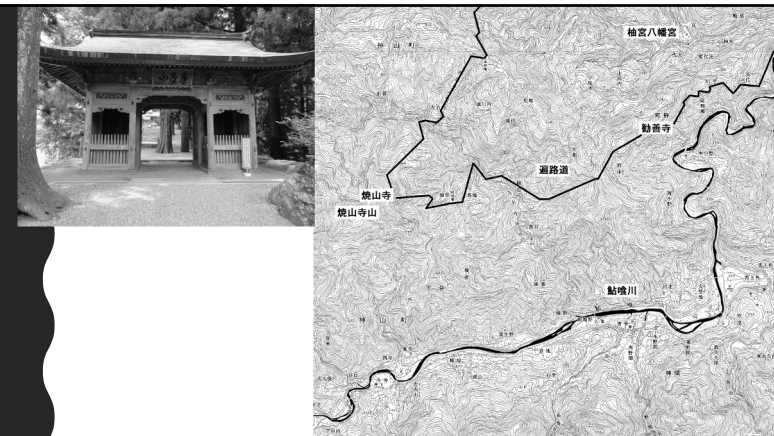
50



焼山寺文書（某袖判下文）

2023/9/24

51



2023/9/24

（長谷川2016）

52

## 「地域」の相貌

- 郡・荘・郷など制度的な領域に収斂しないネットワーク
- 柔軟な寺社と宗教者の活動...接着剤
- 変形する「地域」！...動態的な中世社会

2023/9/24

53

おわりに

2023/9/24

54

## まとめ

- 史料としての大般若経
- 勧善寺大般若経の意義
- 「地域」の相貌...変形する地域、接着剤としての寺社と宗教者→そこに組み込まれている佐那河内（主蓮寺）

2023/9/24

55

## 課題

- 史料としての大般若経の持つ可能性
- 広域的調査と詳細調査
- 主蓮寺は何処に？

2023/9/24

56